

2014年10月20日から27日の間、私と研究室の大学院生3名は、アメリカ・ボストンで開催される国際学会で発表するため渡米しました。学生にとっては修学旅行以来の海外、しかも初めてのアメリカということで、楽しみと不安の錯綜するツアーだったことと思います。

10月20日、成田から約9時間の飛行の後、まずサンフランシスコ国際空港に降り立ちました。時差を修正するためと、私の留学先を訪問することが目的です。サンフランシスコは雲ひとつない青空で、私の記憶にある西海岸そのものでした。初日はスタンフォード大学を見学し、キャンパスの広さ、美しさに感動しました。2日目、鹿児島大学の北米オフィスを訪問しました。鹿大からの留学生の支援の窓口であり、大変心強く思いました。その足で、シリコンバレーの企業、Apple や Google, Facebook も見て回りました。どの企業も自由な雰囲気でありながら活気に溢れていました。午後は私の留学先であるカリフォルニア大学バークレー校を訪ねました。当時の指導教授は3年前に退職されましたが、スタッフに研究所内を案内してもらいました。玄関ロビーに歴代スタッフの写真が飾られていて、15年前の自分を見つけて嬉しい気持ちになりました。学生も指導教員の若かりし姿を見て、何か心に感じるものがあったかもしれません。3日目、サンフランシスコ市内を観光し、4日目、学会開催の地であるボストンに向けて発ちました。5時間のフライトの後、現地時間の夜9時過ぎにボストン・ローガン国際空港に到着しました。あいにく、ボストンの天候は大荒れで、バスと地下鉄を乗り継いで、夜11時過ぎにずぶ濡れになってホテルに到着。朝から何も食べていなかったのですが、ホテル周辺のレストランは閉まっていたので、仕方なくピザの宅配を頼んで、一室に集まってピザを頬張りながら、明日からの学会発表の打ち合わせをしました。5日目、いよいよ Protein Discovery Summit 2014 の開幕です。我々のセッションは 2nd Protein Expression, Purification & Characterization Conference で、多くの研究者がタンパク質についての活発な議論を行いました。学生3名もなんとか初めてのポスター発表の任務を立派に完遂しました。英語でのコミュニケーションもなかなか様になっていたようでした。6日目、終日学会に参加。無事2日間の日程を終えました。学会終了後、その足でマサチューセッツ工科大学を見学。規模の大きさと研究環境の充実さに驚きました。7日目、帰国前の1日をボストン観光に充てることができました。午前中はボストン美術館、午後からはハーバード大学を見学しました。400年の歴史と150人以上のノーベル賞受賞者を輩出している名門中の名門、洗練されたキャンパスの雰囲気にも刺激を受けたことでしょう。今回、全米でもトップ4の名門大学を一度に見ることができたなんて、これほどの経験はなかなかできないでしょう。8日目、名残惜しく思いつつもボストンを後にし、ニューヨーク経由で無事帰国しました。

今回の渡米、学会での発表経験が、また初めて見るアメリカのすべてが、いろんな形で学生一人ひとりに影響を与えたに違いありません。ただ、旅行中はスマートフォンはカバンにしまっておいた方がいいですね。スマホの画面ばかり見ていては、せっかくの光景を見逃しますから。

なお、今回の渡米は、鹿児島大学の学生海外学会発表支援事業の支援をいただく予定です。学生にこのような機会を与えてくださいましたことに、この場を借りて御礼申し上げます。